

博物館だより



No.117

平成28年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館新展示・ここに注目！
小宮豊隆資料

「漱石コレクショ」
Vol.4

夏目漱石没後百年の今年、文豪ゆかりの事は注目の的で、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛感した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。シリーズ。今回はコレ！

●漱石宛小宮豊隆宛て書簡(1)

漱石は文豪と呼ばれただけに著作以外にも大量の書簡を発信しています。現在知られるものだけでもその総量は優に二千通を超えますが、その内容は単純



遊びで掲載した漱石像を、面白がって模写し、小宮へ「コレが俺だつてさ」と紹介しています。漱石の遊び心の「達人」ぶりがうかがえます。

な近況報告から、評論・随筆・詩文等多岐にわたつており、単なる「筆まめ」を越えた人だったようです。

愛弟子となる小宮へは「遊びにおいて「来客多くてうんざり」といったメールのような葉書から、厳しい人生訓を綴つた長文の手紙にいたるまで、何れも愛情とユーモアあふれる書簡が送られています。

ユーモアと言えば、5月号で紹介した猫の死亡通知に次ぐ傑作が左の手紙です。明治39年、ベストセラーとなつた『吾輩は…』の著者は書名からするとこんなだろうと、大阪滑稽新聞が

平成28年度 博物館企画展①

第10回向井澄男写真展 不動X — 水辺の風景 —

当館では7月20日(水)から8月21日(日)まで、故・向井澄男さんの写真展を開催しています。



▲ため池の葦原で抱卵する水鳥

10回目を迎える今回のテーマは「水辺の風景」。

ふるさとの川や海、ため池・水田などの「水辺」に展開した懐かしの風景、豊かな自然と暮らしの姿をご覧ください。

●場 所 当館展示室

●観覧料 常設展の観覧料
(大人二〇〇円・高校生以下は一〇〇円)をご覧ください。

8月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
8月6日(土) 9時30分
 - 【古文書講座】
8月6日(土) 13時30分
 - 【古典かな講座】
8月20日(土) 9時30分
 - 【みやこ学講座】
8月27日(土) 10時00分
- ※日程等変更となる場合があります。

文化の「みやこづくり」プロジェクト 絵画・作文コンクール作品募集!

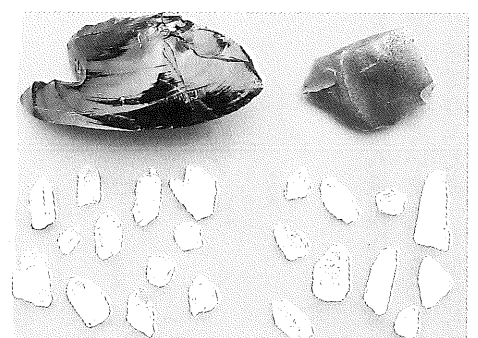
博物館では京築地区に在住・通学する小・中・高校生を対象に、ふるさとの歴史と文化ゆかりの絵画・作文コンクールを行います。絵画は「わたしの町の過去・現在・未来」をテーマに、作文は「歴史」をテーマに募集します。(ただし、作文は小学5・6年生のみ対象) 詳しい応募方法は博物館 ☎ 314666へお問合せを!



▲第5回絵画コンクール「過去部門」グランプリ作品

夏休み体験教室のお知らせ 鉱物標本を作ろう!

日 時：8月27日(土) 13:30～
場 所：博物館研修室
参加条件：みやこ町在住又はみやこ町の小学校に通学する児童。
*1～3年生は保護者の同伴が必要です
先着40名まで
申込みは博物館(☎33-4666)へ!



▲みやこ町の歴史とつながりの深い鉱物について学びます

鉱物・岩石の標本				
花崗岩	安山岩	石英	長石	苦灰岩
みやこ町 山口南字区	みやこ町 大分県田原市	大分県 豊後高田町	福岡県 福岡市	北九州市 門司区
黒雲母	リネア母	紅麻片岩	玉髓	チャート
山口南字区	福岡市	大分県 大分市	大分県 大分市	宮崎県 宮崎市
黄鉄鉱	磁鉄鉱	硫黄	陸安鉱	アタカマ石
大分県 大分市	北九州市 門司区	大分県 大分市	熊本県 天草市	あきたませき 山口県 萩市

▲鉱物標本(写真はイメージです)

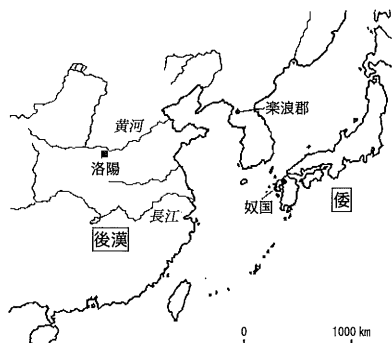
みやこの歴史発見伝 90 みやこ町の古い地名1

倭(倭国) 豊前国(京都郡)

とても大切なことなのに、知っているようで知らないのが、私たちが生活している場所を言い表す地名に関することです。そこで、今回から何回かに分けてみやこ町に関係する様々な古い地名について勉強してみたいと思います。

倭(倭国)

第一回目はみやこ町より広い範囲の古い地名です。私たちが暮らす極東アジアの海上に浮かぶ列島。この列島に古く倭国と呼ばれる地域がありました。中国の古い文献の中で列島の住人を指して「倭人」と



▲紀元1世紀の東アジア

記述したのは紀元前一世紀の『漢書』地理志が最初で、「楽浪海中に倭人あり、分かれて百余国を為し、歳時をもつて来たりて献見すと云ふ」と述べられています。さらに『後漢書』東夷伝では、「建武中元二年(西暦五七)倭奴國、奉貢朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、賜ふに印綬を以てす」とあります。

これらの記載から弥生時代中頃の紀元前一世紀頃には、この列島に「倭国」があったことがわかります。ただし、それが列島のどの範囲かは不明です。

日本

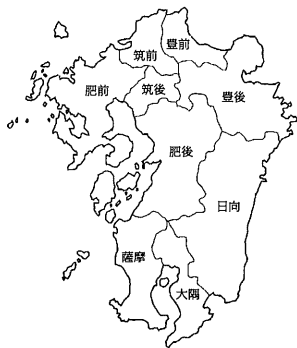
私たちはこの列島を日本列島と呼んでいます。が、「日本」という国名はいつから使われ始めたのでしょうか。

現在「日本」の成立時期については有力な説が二つあります。一つは天武天皇の治世(六七二年～六八六年)に成立し、六八九年の飛鳥浄御原令で「天皇」表記と「日本」表記とが定められた

とする説です。もう一つは七〇一年の大宝律令の成立前後に「日本」表記が成立したとする説です。なお、七二〇年に成立した『日本書紀』では大化元年(六四五)に「日本天皇」という表記がありますが、『日本書紀』自体が「日本」の名称が確立した後の書物であることから、編者の作が考えられています。

九州と豊前国

「九州」の呼称は、列島の西部の主要な島に、筑前・筑後・肥前・肥後・豊前・豊後・日向・大隅・薩摩の九つの国が存在したことに由来します。その昔、この島には筑紫・肥・豊などの国がありましたので、それらが「前」「後」の二か国に分割されて以降に九州という呼び名ができたと考えられます。豊国の場合、豊後国の国名の初見は『続日本紀』文武二年(六八九)九月の条です。豊前国は大室二年(七〇二)の戸籍に見られることから、豊国が豊前国と豊後国に分かれたのは七世紀末の



▲九州内の国々

持統朝の頃と考えられています。なお、豊前の読み方は一〇世紀前半に編纂された『和名類聚抄』によると、「止与久爾乃美知乃久知」となっています。

福岡

福岡の地名の由来は、近年の黒田官兵衛ブームのおかげで、ご存知の方も多いと思いますが、簡単に復習しておきます。慶長五年(一六〇〇)十月、関

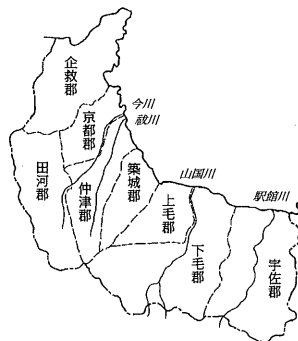
ヶ原の戦いの功績により、黒田長政に筑前国の大部分が与えられます。翌六年に長政は那珂郡福岡に築城し、その城下町を黒田氏の発祥の地である備前国邑久郡福岡にちなんで、福岡と名付けたとされています。

京都郡

さて、段々と私たちの身近な地名になつてきました。次は京都郡の登場です。みやこの漢字による表記は、古くは「京都」以外にも「宮子」「宮處」「京」「美夜古」などがあります。

『日本書紀』の景行天皇十二年九月の条には、背いた熊襲を征討するため、天皇自ら乗り出し、筑紫国(九州)に入り、豊前国長狭県に行宮を興した。そのことからこの場所を「京」と言うようになったとあります。

『続日本紀』の天平一二年(七四〇)の条に「京都郡」の記録が見えます。また、行橋市延永ヤヨミ園遺跡から「京都大」



▲豊前国内の奈良時代の郡

と書かれた八世紀代の墨書土器が出土しています。この文字は京都郡の「大領」すなわち郡の長官をさす言葉です。これらことから奈良時代にはすでに郡の名称として「京都」が使われていたことがわかります。

仲津郡

旧犀川町から旧豊津町の地は古く仲津郡と呼ばれ、明治二九年(一八九六)に京都郡と合併するまで郡名が残っていました。

大宝二年(七〇二)の豊前国仲津郡丁里戸籍が国の重要文化財に指定され、奈良国立博物館に所蔵されています。また、奈良県の平城宮から出土した木簡には天平三年(七三二)に豊前国仲津郡から税として綿が平城京に運ばれたことがわかる資料があります。これらのことから「仲津郡」の地名は奈良時代よりも前から存在していたことがわかります。

次回からはみやこ町内の古い地名について見ていきます。(末永弥義)